

はじめに

人と人、人とまちのつながりの再デザインをテーマに、当連載では大阪・上町台地界隈をフィールドに繰り広げられている、都市居住文化の創造に関わるさまざまな取り組みを紹介している。第12話以降は、同フィールドに立地する大阪ガス実験集合住宅NEXT21の第3フェーズ居住実験の一環として展開している「U-COROプロジェクト」(※1)を紹介して、人と人、人とまちのつながりの回路を

「コミュニティグリーン」の存在価値を浮かび上がらせた。今回、連載第21話では、丁寧な手を使ったものを介して、人やまちとのつながりを大切に、暮らしによりそう、まちなかのプロフェッショナルにスポットを当てる。持続可能なまちづくりという言葉が使われるようになって久しいが、生活者として、使い捨てにしない暮らしを志し、使い捨てにしない人やまちとのつながりを持って生きていくためにはどうすればよいか。その手がかりは難しい書物のなかよりも、むしろずっと身近なまちなかにあるのではないだろうか。日々の暮らしによりそう、まちなかの商店

弘本 由香里

Written by Yukari Hiromoto

大阪・上町台地発
都心居住文化の創造へ
(第21話)

人とまちをつなぐ、
手仕事・ものづくり・なりわい
—まちなかのプロフェッショナルの力

豊かにしていく、上町台地ならではの地域資源を活かしたつながりのスタイルにアプローチしている。

前回、連載第20話では、上町台地の長い歴史を物語るかのように、さまざまな暮らしを縁取ってきた多彩な樹木や緑地の存在に着目し、身近な緑との興味あふれる交わりの醍醐味を具体的に表現している。時空を越えて、人と人、人とまちのつながりを媒介する、歴史と生活文化に根ざした緑の可能性を描き出すことを試みた。上町台地ならではのつながりのスタイルのダイナミズムを媒介する重要なメディアとして、上町台地を特徴づける「緑」

主や職人のなかに、血の通ったまちづくりの礎ともなる暮らしやなりわいの哲学が、しなやかに受け継がれていることに気づかされる。上町台地界隈で改めて身の回りを眺めてみると、日常の食べ物や生活用品や暮らしを支えるサービスなどを通して人とまちをつなぐ、驚くほど豊かな手仕事やものづくりや商いのプロフェッショナルが存在している。そこで、U-COROプロジェクトの第13弾となるウィンドウ・エキジビジョン(2011年2月1日～6月30日)では、「上町台地まちなかのプロフェッショナル暮らしによりそう手仕事・ものづくり・まちづくり」(※2)を

テーマとして、まちと暮らしを見守り支える、まちなかのプロフェッショナルの幾人かを訪ね、その手のぬくもりと眼差しに向こうに、世代を越えてつながる上町台地の未来を見つめることとした。

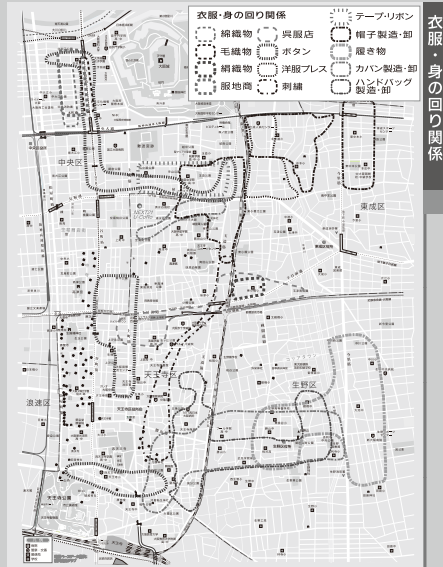
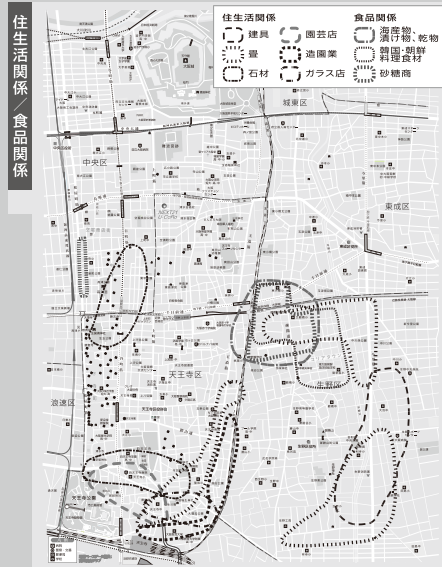
上町台地界隈に息づく 職人色の強い業種の集積

長い都市居住の歴史を持つ上町台地界隈には、時代の変遷とともに営まれてきた、さまざまな暮らしを支える手仕事・ものづくり・なりわいが、今も息づき集積している。U-CoRoの展示では、その特性を垣間見るべく「上町台地手仕事・ものづくり・なりわいマップ」を作成した(図1)。

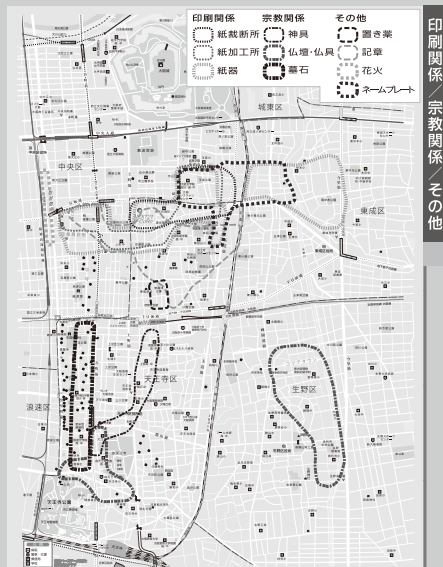
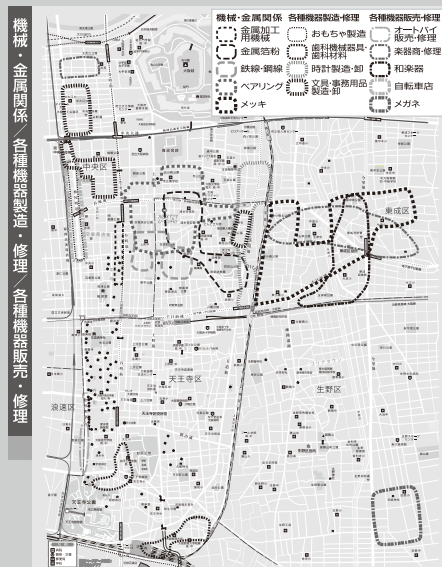
同マップでは、上町台地界隈で今も営まれる職人色の強い業種のうち、同業種が比較的固まって立地している界隈を示している(印刷業全般や紳士服の製造・卸など)。のように、広範に単独で立地している個々の事業所の情報は除いて、同業種が固まって立地している場合だけを示している。

「住生活関係(建具、畳、石材、園芸店、造園業、ガラス店)／食品関係(海産物・漬物・乾物、韓国・朝鮮料理食材、砂糖商)」、「衣服・身の回り関係(綿織物、毛織物、絹織物、服地商、呉服店、ボタン、洋服プレス、刺繍、テーブ・リボン、帽子製造・卸、履き物、カバン製造・卸、ハンドバック製造・卸)」、「機械・金属関係(金属加工用機械・金属箔粉、鉄線・銅線、ベアリング、メッキ)／各種機器製造・修理(おもちゃ製造、歯科機械器具・歯科材料、時計製造・卸、

上町台地 手仕事・ものづくり・なりわいマップ



地図にある45業種は、上町台地界隈で今も営まれている職人色の強い業種で、同業種が比較的固まって立地している界隈を示しています。印刷業全般や紳士服の製造・卸などの個々の事業所は、ここで示している界隈以外に広範に単独で多数立地していますが、個々の立地情報は除いて、同業種が固まって立地している場合だけを示しています。



文具・事務用品製造・卸)／各種機器販売・修理(オートバイ販売・修理、楽器商・修理、和楽器、自転車店、メガネ)、「印刷関係(紙裁断所、紙加工所、紙器)／宗教関係(神具、仏壇・仏具、墓石)／その他(置き薬、記章、花火、ネームプレート)」、ここに含まれる45業種の集積は、次のような特徴を物語っている。展示パネルから抜粋紹介する(※3)。

図1 「上町台地 手仕事・ものづくり・なりわいマップ」(U-CoRo ウィンドウ・エキジビション13 展示パネルから)

◆上町台地にまだ息づく、まちなかのプロフェッショナル

「繊維のまち」と呼ばれた大阪らしく、服飾関係の業種が多く見られます。上町台地では紳士服関連の業種が中心ですが、地図では谷町界限を中心に布地や織物などの素材、上町台地に南北に広がるボタン、JR環状線沿いに立地する刺繍や洋服プレスなどが特徴的です。

また、勝山通沿いに立地するハンドバックやカバンの製造・卸、玉造から緑橋にかけての帽子製造・卸など、身の回り品に関わる業種もいくつかみられます。

「くだおれのまち」としては鶴橋界限に広がる海産物や乾物などの製造・卸、コリアタウンらしい韓国・朝鮮料理食材商、そして松屋町筋にもみられる砂糖商が挙げられます。

印刷関係では紙裁断所や紙加工所、紙器が松屋町から玉造にかけての長堀通沿いにみられます。この界限では、印刷屋さんのカッチャンカッチャンという音も聞こえてきます。

寺社の多い上町台地らしさが表れた業種もみられます。神棚や神輿などを扱う神具、仏壇・仏具、墓石です。

それぞれの業種の立地には、まちと人が折り重ねてきた時が垣間見えます。通勤や通学で、買い物や散歩でまちなかを歩かれるとき、ふと目に留まった風景ある看板や店構えに、まちの先人から続く道程を感じ取ってもらえれば幸いです。

こうした時と営みのつながりのなかに、現代を生きるまちなかのプロフェッショナルが存在し、そこで伝えられ生み出されていく手仕事・ものづくり・なりわいが、人とまちをつなぎ、まちを下支えする大きな力ともなっている。

まちなかのプロフェッショナルがつなぐ心

今回、まちなかのプロフェッショナルにスポットを当ててきたあたって、こだわったことがある。それは、商品やサービスを生み出し提供する技を越えて、むしろその背景にある暮らしやなりわいの哲学にふれたいという願いだった。丁寧な手を使ったものを介してこそ、他者も過去も未来も大切に思いやることのできる暮らしやまちが成り立つのではないかとこのことを、それぞれの営み、人やまちとの関わり方を含めて伝えていきたいという思いである。言い換えれば、まちなかのプロフェッショナルの層の厚さこそ、持続可能なまちの力を物語るバロメーターと言ってもいいのではないかと、この問いかけでもある。

展示にあたって、取材した先は13件。メガネにもまちにも細やかに目を配るメガネ屋さん、一粒一粒に物語があるチョコレート屋さん、まちの再生に思いを馳せる帽子屋さん、おいしいおかずが家族のように和むデイサービスセンター、夢を形にする一品もののガス機器屋さん、小さなボタンからものづくりとまちの未来を思う服飾用品屋さん、おにぎりに心を込める米屋さん、大阪の食文化に欠かせない鯉節屋さん、食卓につくりたてを届ける豆腐屋さん、あたたかい暮らしを支える布団屋さん、上町台地ならではの仏花屋さん、味を磨いて人をつなぐ寿司屋さん、一字一字の手触りを伝える活版印刷屋さん。その技と魂にふれる取材レポート(※3)から印象的なフレーズを紹介し、まちなかのプロフェッショナルが、つなぐ心に迫ってみたい。

なお、ここで紹介している方々以外にもたくさんのおられたまちなかのプロフェッショナルが存在するが、スペースや時間等の制約で限られた方々への取材となっていることをお断りしておく。

世界から愛されるメガネづくりの 眼差しで地域を下支え

アイデアあふれる特許製品で、クリントン元米国大統領やジョン・レノンなど、国内はもとより世界の著名人も多くの愛用者がいる、「カンダオプティカル」のメガネ。〈メガネとまちへのきめ細かい目配り／カンダオプティカル・神田晃治さん〉(写真1)は、父の下で幼い頃からメガネに携わり、一人ひとりにあった正しいメガネづくりにも邁進してきた。そのきめ細かで優しい眼差しは、地域にも同様に注がれている。商店街や地藏盆などの地域活動にも熱心に関わり、会社の広間を地域の寄り合いに開放するなど、「実は人付き合いが苦手で、PTA役員を引き受けたのが運の尽き(笑)」と言いつつ、てらうことなく地域を下支えしている。〈人の手が不要になる世の中では、人も不要になる」と職人さんらしい目線でまちの今を危惧しつつ、未来への手もさりげなくこしらえようとしています。〉世界からもご近所からも、頼りにされるにはわけがある。当たり前のことでありながら、忘れられてしまっている、暮らしによりそう、まちなかのプロフェッショナル。だからこそ、人とまちへのきめ細かい目配りがそこにある。神田さんと同じ五条地域(天王寺区)で、地域活動に尽力している富士原純一さん(南富士原文信堂)は、神田さんの姿に「古き良き「旦那衆」の面影」を重ねて、次のようなコメントを寄せている。〈神田さんはいろんな地域活動の大先輩ですが、いつもサポート役に回っていたかどうかえに、寄付金も頂戴したりと、お世話になります。そのうえ、メガネもお世話になっていますが、「メガネの調子はどうないや」とこれまたいつも気に掛けてもらっています。古き良き「旦那衆」のありようを教えてください。〉

地域に根を張り愛されてこそ 本物のものづくりに

「まちなかのプロフェッショナル」には、代々上町台地でありわいを受け継いできた人もいれば、近年新しくまちにやってきて、そのなりわいを地域に根付かせつつある人もいます。

チョコレートづくりで「一粒、ひとときに想いを込める」／エクチュア・植松秀王さん(写真2)は、後者を代表する存在だ。大阪屈指の繁華街・心斎橋から、あえて古い長屋が残るまち空堀界限(中央区)へ、本店と工房を移して7年余になる。その根底に、「商売はまちの人に認められてこそ」との強い思いがある。ご近所付き合いを大切に欠かすことなく「高津宮の氏子菓子づくりにも、洒落っ気たっぷり、でも味は本格派の「ジンジャー・チョコレート」で参画。「近所の女の子が、一粒だけ買いに来てくれたときはうれしかった」と語りながら、チョコレートを介して、まちの生活文化が豊かになっていくことを夢見ています。職人技が光るチョコレートは、まちに根を張り愛されている。本店と工房は、空堀界限の街並み再生のシンボル「お屋敷再生複合施設「練」」の蔵で営業している。「練」の再生を手がけた六波羅雅一さん(からほり倶楽部、六波羅真建築研究室)は、植松さんを「温故知新を地でいくことができる職人さん」と語り、出会っ



メガネとまちへの
きめ細かい目配り

写真1 カンダオプティカル・神田晃治さん
(U-CoRo 独案内 Vol.13 から)



粒、
ひとときに想いを込める

写真2 エクチュア・植松秀王さん
(U-CoRo 独案内 Vol.13 から)

た当時、緒についたばかりだった再生プロジェクトの理解者として支えられた経緯を振り返りながら、次のようにコメントしている。(空堀商店街界限で長屋再生を手がけはじめた頃、上松さんはいち早く声を掛けてくれました。修築前はお化け屋敷(笑)みたいだった「練」への入店も即答してもらいましたが、新しい世界を切り開きながら、古いモノへのあふれんばかりの愛情も持ちこたえます。商売だけにならず、さりげなく気配りされる姿勢には、いつも勉強させてもらっています。)

まちと暮らしを支えてくれた 帽子でまちの再生へ

空堀界限で長屋再生を手がけてきた六波羅雅一さん(六波羅真建築研究室)は、緑橋(東成区)の町家を再生した複合施設「燈(あかり)」の運営にも携わっている。この施設とまちのつながりを物語っているのが、町家のガラス越しに目に飛び込んでくる創作帽子屋「桂(key)」のシックで個性あふれる帽子たちが並ぶ風情だ。

〈生まれたときからそばにある帽子とまちへの愛着／桂(key)・桂田秀人さん〉(写真3)は、このまちで生まれ育った。地元緑橋界限の地場産業・帽子への愛着はひとしおである。帽子づくりに長年携わり、出店を検討している際に、子どもの頃から身近にあった町家を再生した「燈」に巡り会って出店を決めた。(帽子産業の活性化はもとより、お店を出す町家、そして地域の活性化も見据えて、「燈」でのイベントでも手弁当でがんばっています。「生まれ育ったところやからね」とさりげなく言いつつ、帽子とまちに日々愛情を注がれています。)

高度経済成長期にかけて大いに隆盛し、東成区を中心とした一帯に広がった帽子産業だが、身近な商品が海外で

量に生産されるようになってから、短命で使い捨てられる商品が市場にあふれかえるようになってしまっている。そんな時代だからこそ、このまちで生まれ育った職人として帽子づくりの原点に帰り、一人ひとりの個性や希望に合わせてデザインから素材選びまで徹底して創意を凝らし、時間をかけて縫い上げる、一生ものの帽子づくりにこだわる。職人として時代・地域・社会に向き合う、愛情と気骨が伝わってくる。「燈」で催されるイベントには、地域やテナントの人たちが、桂田さんの帽子をかぶって集まるようになった。帽子のまちづくりへ、あたたかい帽子の手触りとともに、共感の輪が広がり始めている。

第21話のおわりに

そのほかに、(親戚一同)の付き合い方がまちへ広がる／デイサービスセンター陽だまり・早川靖枝さん、(技を磨き、まちを磨く、たゆまぬ向上心)旭進ガス器製作所・吉村健一さん、(まちに育てられた若いまちっ子が、ま次の次代を育む)丸善ポタン・岸本知子さん、(お米を炊き込み、つながりを炊き込む)ウミタ食糧店・海田弘美さん、(鯉節の香りが誘う、まちなかのつながり)鯉節丸与・岡田君代さん、(豆腐と商店街に、毎日、手間暇をかける)岡田屋本店・岡田勝之さん、(商店街で、布団、ひと、ときを重ねる)せいや・宮崎昌久さん、(花もまちも)近所も、丁寧生ける)花熊・山本良一さん、(基本を守り、工夫を加え、寿司と客、まちに向き合う)弥助寿司・徳力修司さん、(まちなかの活版文化を、若い世代に刷り込む)上田印刷所・上田秀雄さん(写真4)の、心に残る



生まれたときからそばにある
帽子とまちへの愛着

写真3 桂(key)・桂田秀人さん
(U-CoRo 独案内 Vol.13 から)



類感一同の
付き合い方がまちへ広がる



写真4※
デイサービセンター
陽だまり・
早川靖枝さん



技を磨き、まちを磨く、
たゆまぬ向上心



写真5※
旭進ガス器
製作所・
吉村健一さん



まちに育てられた
若いまちっ子が
まちの次代を育む



写真6※
丸善ボタン・
岸本知子さん



お米を炊き込み、
つながり炊き込む



写真7※
ウミタ食糧店・
海田弘美さん



鯉節の香りが誘う、
まちなかのつながり



写真8※
鯉節丸与・
岡田君代さん



豆腐と商店街に、
毎日、手間暇をかける



写真9※
岡田屋本店・
岡田勝之さん



商店街で
布団、ひと、ときを重ねる



写真10※
ぜいや・
宮崎昌久さん



花もまちも近所も、
丁寧に生ける



写真11※
花熊・
山本良一さん



基本を守り、工夫を加え
寿司と客、まちに向き合う



写真12※
弥助寿司・
徳力修司さん



まちなかの活版文化を、
若い世代へ刷り込む



写真13※
上田印刷所・
上田秀雄さん

※(U-CoRo 独案内 Vol.13 から)

フレーズの数々があるのだが、ここでは紙幅の都合でやむを得ず割愛させていただくことをお許しいただきたい。

今回の展示がきっかけのひとつとなつて、新しいコラボレーションの試みも生まれた。第21話のおわりに、そのエピソードをご紹介します。先だつての2月14日、バレンタインデーに、筆者の手元に思いがけぬ贈り物が届いた。「丸善ボタン」の岸本知子さんが、チョコレト工房「エクチュア」の植松秀王さんとともに試作した、ボタンをかたどった愛らしいチョコレトだった。

「丸善ボタン」は、ボタンをはじめとする服飾用資材の販売卸の会社だが、若い三代目の岸本知子さんは、会社の1階をギャラリーに改装し、まちとの関わりを深めながら、ユニークな小物づくりや、目利きして取り寄せたグッズの販売なども手がけている。界限には楽器づくりの職人さんをはじめ、さまざまななりわいを営んでいる人が多く、「大勢の大人や職人さんがつくる小物に囲まれて育つたからかな」と、ご近所さんとともに地域のまちづくりの担い手の一人としても活躍している。ものづくりや暮らしによりそう小さな商いに寄せる思いは深い。職人さんが丁寧につくったものを、メンテナンスしながら使う、良質なものづくりと人の暮らしをつないでいくこと、心が届くようなものに出会う機会をつくっていくことが、生活を豊かにする基盤になり、まちづくりにもつながっていくという思いがある。

その思いのなから、ボタンのチョコは誕生した。子どもから高齢者まで、ともすると希望を見失ってしまいがちな世情を見るにつけ、人の心をつないでいくものづくりの大切さを、改めて実感させられる、まさに心が届く贈り物だった。

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員)

CEL

※1) NEXT21第3フェーズ居住実験の一端としての地域コミュニケーションデザイン実験(U-CoRoプロジェクト)の概要等は、季刊誌CEL83号・84号・86号・88号・89号・91号・92号・93号・95号「大阪・上町台地発 都心居住文化の創造へ」(第12話・20話)及びU-CoRoホームページで紹介している。
<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/issue/cel/>

※2) 主催：大阪ガスエネルギー・文化研究所(CEL)、企画：U-CoRoプロジェクト・ワーキング・グループ、運営している。2011年3月現在の同ワーキング・コアメンバーは、弘本由香里(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所/上町台地からまちを考える会)、橋本護(Bitrain)、早川厚志(まちづくり工房/からほり倶楽部/上町台地からまちを考える会)。

※3) U-CoRoウィンドウ・エキジビション13「上町台地 まちなかのプロフェッションナル」暮らしによりそう手仕事・ものづくり・まちづくり」での、マップや取材レポート執筆はU-CoRoプロジェクト・ワーキングの早川厚志氏が担当、写真撮影・デザインは同ワーキングの橋本護氏が担当、総合ディレクションを同ワーキングの弘本由香里が担当。